

産研 同窓会通信

2017年10月



産研の垂れ桜の前に Light bench を設置。Light bench は、スマホにより色等を自在に制御できるベンチで、座ることはもちろん夜は暗い道に光を灯してくれます。

ご報告

H28 年度産研同窓会総会
H28 年度最終講義・茶話会

山行日記

Mountain.9 北漢山（プカンサン）ソウルの山

お知らせ

第2回産研ホームカミングデイ & 学術講演会

第 11 回産研同窓会総会を開催しました。

平成 29 年 3 月 10 日、産業科学研究所 所長室において、第 11 回産研同窓会総会を開催しました。産研同窓会活動の報告や産研の現況報告が行われました。また、新役員の選出や、今後の活動方針等の意見交換が行われました。

同窓会総会後には、平成 28 年度最終講義・さよなら茶話会にご参加いただきました。

【役員リスト：平成 29 年 4 月 1 日現在】

会 長	山口 明人	特任教授 (24 代所長)
副 会 長	中谷 和彦	所長 (所長任期中)
監 事	弘津 禎彦	特任教授 (企画室長)
	仲田 昇	元事務部長
運営委員	山田 等	元技術室長
	茶谷 直人	本学工学研究科 教授
	西嶋 茂宏	本学工学研究科 教授
	柏原 昭博	電気通信大学 教授
	鷲尾 隆	教授
	安蘇 芳雄	教授
	誉田 義英	准教授
	小牧 将浩	総務課長 (産研在任中)

【平成 28 年度会計報告】

○収入	： 2 4 7, 6 4 3 円
	(内訳)
	2 3 2, 6 1 9 円 (昨年度繰越金)
	1 5, 0 0 0 円 (永年会費)
	2 4 円 (その他)
●支出	： 0 円
☆ 来年度繰り越し	： <u>2 4 7, 6 4 3 円</u>



今後も、同窓会活動の充実のため、
有効的に活用させていただきます。



産研同窓会長就任のご挨拶 山口 明人

前同窓会長の坂田祥光先生が持病の腰痛が悪化し、ご自宅から外出されるのが難しいとのことで、副会長の私が本年 4 月より同窓会長を拝命いたしました。

坂田先生が会長に就任された 2015 年 4 月、私はまだ定年退職後第 3 プロジェクト研究分野特任教授として産研に在職中で、気分としては全く現役でしたので、同窓会の仕事はまだ早いといったんは辞退したのですが、坂田先生はお若く、少なくとも 5 年以上は会長を務めていただけるであろうということ、産研在籍というのは現役と OB をお繋ぎするのに都合が良いかもしれないということでお引き受けいたしました。それがまさかの 2 年間での会長引き継ぎという事態になろうとは想像だにいたしませんでした。産研史上初めての現役での同窓会長という誠に以て申し訳ない事態になってしまったことをまずもってお許し下さい。さらに、副会長が未定です。副会長は次期会長含みですので、本来なら私の後任の所長である八木先生または中谷先生ということに慣例ではなりますが、両先生とも、まだまだ 50 代の現役バリバリの若手でいらっしゃる。大変困った状態でございます。

というわけで、異例の片肺飛行ですが、何とか同窓会を盛り上げていきたいという思いは強くあります。昨年、坂田会長の下で、恒例の産研学術講演会の一部を「産研ホームカミングデイ」として、OB の方にご講演を頂くという試みを始めました。第 1 回は福井俊郎先生と権田俊一先生にお願いし、産研の歴史・裏話、現在のご趣味のお話など大変興味深く好評でした。これまでの名誉教授懇親会より参加者の幅が遙かに広く、産研在籍者にとって OB が身近に感じられる効果があったと思います。

今年は、川合知二先生にお願いし快諾を得ています。川合先生は御定年後も産研の特任教授として残られる傍ら、NEDO の技術戦略研究センター長としてご活躍中です。私たちにも刺激的なお話が聞けるのではないかと大いに期待が高まります。

また、今年の産研フェスタは、同窓会も協賛に加えていただき、「カフェ・ド・サンケン」のお手伝いをさせて頂きました。同窓会の弘津先生が蝶ネクタイ姿でバーテンダー役を務めて下さっているのを目にした方も多いと思います。産研フェスタ、学術講演会ともに OB の方が奮ってご参加下さるようお願いしております。

これからも、産研現役の同窓会長という利点を生かして、OB の方に来て頂きやすい場を提供する。現役の方々には、産研同窓会を「見える化」ということに注力していきたいと思っておりますので、どうかご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



Mountain.9

「北漢山（プカンサン）・ソウルの山」

韓国のソウル市街の北側に北漢山国立公園がある。公園は、二つの地域、北漢山とその北にある道峰山（ドボンサン）からなっている。北漢山（プカンサン）は、白雲台（ペグンデ、836m）、仁寿峰（インスボン、810m）、万景台（マンギョデ、799m）の三つの峰から成る花崗岩の山である。このため、三角山とも呼ばれる。北漢という名は、ソウルを流れる漢江の北側にあることからきている。下に全体図を示す。上の顔写真は白雲台頂上付近で。背後の岩山は仁寿峰。



北漢山国立公園全体図

この山域には、北漢山城という山城があった。公園内にある説明板によれば、この城は壬辰倭乱（文禄、慶長の役）と丙子故乱（清の侵略により起きた戦争）の経験に基づき、非常時に備え、漢陽（ソウル）の外部に城を築こうという議論の末、1711年（肅宗 37年）に造られたものだという。軍事指揮所である将台を3カ所に置き、城門6基、暗門6基、水門1基を設けた。また、僧軍を駐留させるために12の寺を設け、1712年（肅宗 38年）には行宮（臨時の王宮）と軍倉を建てた。近年崩壊していた大西門、大南門の修理、大城、大東門などの復元、城郭と女牆（じょしょう、小さい塀）などの修理、整備などが行われた。

北漢山国立公園に最初に行ったのは、1996年10月23日だった。ソウルで開かれたある国際会議のとき、午後3時くらいまで空いた時間があったので、教え子でソウルの大学の教員をしていた愈淳載君に、近くの山を案内してくれないかと頼んでいた。当日、愈君は、自分には行けなくなったので、と代わりに一緒に行ってくれる人を紹介してくれた。記録がなく名前がわからないが、大学教授と会社社長である。社長は運転手付きの車に乗っていて、会議の会場に迎えに来てくれ、大統領公邸の青瓦台の近くを通ってその北に

ある北漢山国立公園に連れて行ってってくれた。ルートはよくわからないが、西側から登って東側に下りた。下りたところには社長の車が待っていて、そのまま、昼の食事に連れて行ってってくれた。なんとも豪勢な山登りである。ただ3人の会話は、教授と私は英語、社長と私は日本語、教授と社長は韓国語で、三つの国の言語が飛び交う変わった会話の形になった。

山で撮った写真を載せておこう。石の山であることが分かる。このとき行ったコースでは、手すりや階段はあまりなかったようだ。今回白雲台に登った感じからは、1996年の山行では白雲台には登っていない。白雲台への登山道が整備されたのは、比較的最近のようなので、この時はまだ整備されていなかったのかもしれない。ちなみに、仁寿峰、万景台は、現在もエキスパート以外はたしか登山禁止である。大東門に行っているのので、北漢山国立公園の南側を歩いたということなのだろう。



社長（左）と教授（右）1996年



石の坂をロープで下りる



大東門で

2 回目は、丁度 20 年後の 2016 年 9 月である。準教え子の東国（トングック）大学の Kang 教授が、私が 9 月に 80 歳を迎えるのを知って、お祝いをしたいから、ソウルに来ないかと招待してくれた。そこで妻の伸枝と一緒にいくことになった。現地でのお祝いの席上で、古くからの知り合いの Min 教授から、韓国では 80 歳は、日本と違って重要な年なんだと聞かされた。Kang にどこへ行きたいかと前もって聞かれて、「北漢山」と答えたら、同じ大学の Lee 教授に案内してもらおうという。本人はかなり太っている上に、前日ポーランドの国際会議から帰ったばかり。山には行かないのかと思っていたら、本人も行くという。これにはちょっと驚いた。

当日の 22 日は、10 時 40 分に二人で、ホテルのグランド・アンバサダー・ソウルに迎えに来てくれた。それから歩いて明洞付近の珍古介でブルコギの昼食。朝食後、近くからタクシーで、牛耳洞（ウイドン）を通り、道誼寺（トソンサ）の下にある登山口へ。



北漢山歩行ルート



道誼寺付近の登山口

この登山口には大きな売店もあり、Kang が水を買ってきて一本くれた。12 時 56 分出発。まずは左の写真のような門をくぐる。上には信号がついている。赤は天候が悪い時で登山は禁止。この日は黄色だった。ウィークデイだったが、登山客も多い。土日は混雑するようだ。はじめのうちは石畳風の道、まだ樹木が多い。

ところどころに案内板などがあるが、ほとんどがハングルで何が書いてあるのか、よくわからない。これが困るところだが、Lee が英語で説明してくれる。彼は米国で学位をとっただけあって英語がうまい。緑の木々の間を行くと、仁寿峰（インスボン）が見えてきた。次の写真のように、噴火の際にマグマの通り道にたまった溶岩が侵食に耐えて残ったという感じである。実際のでき方はどうだんたんだろう。韓国には現在活火山はないらしい。200mに及ぶ垂直に近い壁で、ロッククライミングの場所として人気があるという。仁寿峰待避所があった。警察官の派出所があり、この日は、ロッククライミングをしている人がいたのだろう。警察官が大型の双眼鏡で様子を見ていた。



仁寿峰 インスボン



双眼鏡で様子を見る警察官



白雲山荘前で一休み

仁寿峰は背中に子供をおぶっているように見えるので、Bu-a 山とも呼ばれると、英語の説明がある。Bu-a は韓国語を英語表記したものであろうが、よくわからない。(その後、愈淳載君から来たメールには、Bu-a は Ppul から変化したもので、鉛筆のように尖った形状のことをいい、尖った山のこと、もう一つは負児岳 (子どもを背中に負んぶした形状) の韓国語の発音が BuA Aku だったことから、とあった。)

仁寿峰待避所から少し行くと、長い階段だ。これはひたすら登るだけ。面白くはないが、邪魔な物が多い急坂を登るよりは楽だ。一登りして白雲山荘についた、ここは仁寿峰登山の基地にもなるようで、宿泊もでき、ちょっとした食事もできるらしい。私たちはここには入らず外で休憩。左の写真。左から、Lee、Kang、私。

白雲山荘からは一歩きで、衛門に着いた。後で行く龍岩門のところにあった説明文を借用して書くと、衛門は暗門の一つだろう。暗門というのは、一般の城門とは異なり、隠れた場所にあるもので、戦時中には秘密通路として用いられた。アーチ形ではなく方形の門であること、上部に門構えがないことが特徴のようだ。次の衛門の写真を見ると、この特徴を持っている。ここが白雲台への登山口だ。もちろん、登らずに門をくぐってまっすぐ進むこともできる。案内役の Lee が登山口で言っていたのは、白雲台に登るかどうかは、衛門に着いたとき考えましょう、ということだった。衛門に着いたとき、Lee が伸枝に言った言葉は、You must climb だった。これまでの歩き方を見て登れると判断したのだろう。伸枝は登ることにしたが、Kang はここで待っているという。確かに疲れているのは見て取れる。なにせ重そうな体格だから無理もない。

下左の写真で、ストックで指しているのは、右の写真の白雲台頂上である。右の赤四角の拡大図を見ると、頂上には人がいる。これは肉眼でもよく見えた。しかし、はるか上である。Lee が、ここが登るかどうかの判断場所と言ったのも頷ける。

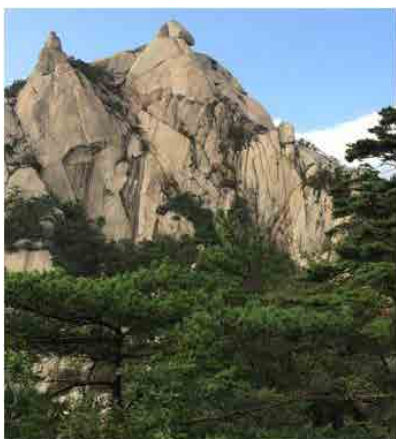


衛門



衛門から白雲台頂上を見る

さて、いよいよ白雲台への登りである。まずは、南側から撮った白雲台の写真を下左に示しておこう。衛門をくぐり、龍岩門へ向かう途中の道からの写真である。衛門は右端にあるので、この右の花崗岩の斜面を登るわけである。一般登山者はそれなりの設備がないと登れない。一つは、かなりの部分につくられている階段である。下中の写真。次は岩を掘って鉄の支柱を埋め込み、支柱の間に張ってあるロープである。このロープが尋常ではない。直径数 cm もあろうかと思われる太い鉄のロープである。さらに急なところにはロープに加えて、岩にステップが切ってある。下右の写真。



白雲台の南面



長い階段



ロープとステップ

これらの仕掛けのおかげで、この難しい斜面も比較的楽に登れて、無事、韓国北部の最高峰、白雲台（ベグンデ、836m）の頂上に立つことができた。頂上には韓国の国旗がはためいていた。左写真。東の方角には、あの近づき難い仁寿峰が少し下に見え、その向こうにはソウルの市街が広がっていた。



白雲台頂上 Lee と



仁寿峰の頭部

頂上では Lee がロシア人に話しかけられて、いろいろ説明していた。英語が役立つ。ドイツ人など外国人も多い。急な滑りやすい岩の斜面は下りも要注意。下りの道からの正面は三山の一つ、万景台（マンギョデ）だ。そちらの方角を眺めて驚いた。登山禁止と聞いていた頂上付近になんと、数人の人がいるのだ。多分許可をもらって登っているのだろう。たいしたものだ。左下の写真。中の写真は伸枝がロープの場所を下りにいるところ。右の写真は、衛門に下りたのち、万景台西側にある西に進む道。階段が見える。Lee のお気に入りの風景だ。



万景台 登山者が見える



白雲台からの下り



万景台西斜面 階段の登山道

衛門に戻ると、Kang は上着を着こみ、待ちくたびれた顔をしていた。ちょっと頂上に長居しすぎたかな。衛門をくぐって龍岩門への道を歩いた。右上の写真の階段に登らなければならない。やれやれ。

龍岩門に近くなってきたころ、一匹の小動物が道の横に姿を現した。近づいても割に平気な顔をして果実を食べている。リスのように見えるが、特別な名前があるのかな。知っている人がいたら教えてほしいものだ。



果実を食べるリス？

龍岩門には、4時25分頃着いた。珍しく日本語の説明文がある。一部は前に紹介したが、ここの分は、龍岩門は北漢山城大東門の北にある暗門で、山城が築城された1711年に建てられた。龍岩門上部の女牆(じょしょう、小さい塀)は崩落していたが、1996年に復元されたという。確かに門の上は新しくなっていて、復元された感じはある。女牆という言葉は難しい。説明文はもっと一般的な言葉を使ったらどうだろうか。



龍岩門



龍岩門に続く女牆(小さい塀)

龍岩門から道洗寺(トソンサ)までは歩きやすい山道。Leeはマイペースでどンドン歩く。2番目の私は後から来る伸枝とKangの中間で様子を見ながら歩く。5時少し過ぎに道洗寺に着いた。想定以上に時間がかかったということだろう。

このお寺はどういうお寺だろう、とネットで調べると、韓国で最強パワーのお寺という記事が出ていた。一番運気の強いお寺という。しまった、もう少しまじめに拝んでおけばよかった。人出も多く、建物も立派。入口の門の上には、三角山道洗寺とあった。



道洗寺(トソンサ)



道洗寺(トソンサ)山門

北漢山国立公園には、たしかにお寺が多い。前の説明には、北漢山城を守るため、僧軍を駐留させるために12の寺を設け、…とあったが、このお寺もその一つなのだろうか。

道洗寺のバス停にはバスを待っている人が大勢いた。Leeはうまく客を降ろしたタクシーをつかまえ、比較的早くホテルに帰ることができた。それでもコリアハウス(もとは韓国政府の迎賓館)の予約時間には到底間に合わず、スケジュールに入っていた伝統芸能は見損なった。

しかし、80歳のお祝いの会はコリアハウスでしっかり開かれ、Min、Kang、Lee、Chung、それに案内役のLeeが出席してくれた。日本語を話す給仕の女性の説明を聞きながら宮廷料理を食べ、金の鍵をプレゼントされ、バースデイケーキのロウソクを吹き消し、満足の会だった。

帰ってから、Kangに礼状を書いたら、返事がきた。それには、研究の話は何もなく、今度韓国に来たときは、一緒にソウル大学の後ろにあるGwanaksan Mountainに登りましょう、と書いてあった。もしも彼が体を鍛えて先生に負けないように登ろう、と考えているなら、82歳、いや85歳になっても行かなきゃならんな、とつぶやいていたら、そばにいた伸枝が、「それって師弟愛?それとも単なる山好き?」と聞いてきた。「いやー。……」

最後の師弟愛は創作です。失礼しました。

■平成 28 年度最終講義、さよなら茶話会を開催しました

2017年3月10日、加藤修雄教授（医薬品化学研究分野）の「フシコッカンジテルペノイドの合成・生合成・活性・機能ーコチレニンに魅せられてー」と題した、最終講義が行われ、100名もの参加者が、皆熱心に聞き入っていました。

続いて、サロン・ド・サンケンで開催されたさよなら茶話会では、残念ながら主賓のお一人

である小川紀之技術室長がご都合のため急遽欠席となりましたが、加藤教授を囲み、和やかなムードの中執り行われました。中谷所長の開会ご挨拶や、真嶋教授による乾杯のご発声、また竹田教授の閉会ご挨拶のいずれも、加藤教授のどなたからも慕われるお人柄に触れたお話で、終始大盛況のうちに終了しました。



■「第2回産研ホームカミングデイ」&「学術講演会」を開催します

日 時：2017年11月22日（水）

ホームカミング特別講演：13時～14時10分

学術講演会：14時20分～18時

懇親会：18時30分～

場 所：産業科学研究所 管理棟 1階 講堂

産研ホームカミングデイは、産研学術講演会のオープニングとして、産研OB・OGの方に近況、産研への思いなどをご講演頂くと同時に、OB・OGの方々が産研学術講演会へ気軽に足を運んで頂くとともに、懇親会で産研OB・OGと現役産研スタッフ・学生が交流する機会となることを目指しています。

今年のホームカミング特別講演は、川合知二先生（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 技術戦略研究センター長／大阪大学名誉教授）です。

また、学術講演会のテーマは、「産業科学におけるAIのインパクト」です。

ホームカミング特別講演、学術講演ともに、産研ならではの内容です。

皆様のご来聴をお待ちしております。

【問い合わせ】

産業科学研究所 総務課総務係

TEL：06-6879-8384

E-mail: sanken-soumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp

【詳細は産研HPをご覧ください】

URL：http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/pb_office/gakujutu/

大阪大学 産業科学研究所
第73回学術講演会
第2回産研ホームカミングデイ
平成29年11月22日(水)

●ホームカミング特別講演会 13:00～14:10
(会場：産業科学研究所 管理棟1階 講堂)
13:00 挨拶 産研同窓会会長 山口 明人

特別講演
13:10 「これからの科学技術と産研の未来」
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 技術戦略研究センター長
大阪大学名誉教授 川合 知二

●学術講演会 14:20～18:00
(会場：産業科学研究所 管理棟1階 講堂)
14:20 開会挨拶 産業科学研究所 所長 中谷 和彦

学術講演
14:30 「データサイエンス時代の人工知能ー課題と挑戦」
米国防総省空軍科学技術局東京オフィス 科学顧問
大阪大学名誉教授 元田 浩

15:40 「対話システムにおける対話を通じた知識獲得」
第1研究部門 産業科学研究所 教授 駒谷 和範

16:10 「次世代エレクトロニクス応用に向けたセルロースナノファイバー材料開発」
第2研究部門 産業科学研究所 教授 能木 雅也

16:50 「細菌とAI」
第3研究部門 産業科学研究所 教授 西野 邦彦

17:20 「ナノスケール複雑系材料と次世代情報処理」
産業科学ナノテクノロジーセンター 産業科学研究所 教授 田中 秀和

17:50 開会挨拶 産業科学研究所 教授 黒田 俊一

●ポスターセッション 掲示13:00～ 討論18:00～
(会場：産業科学研究所 管理棟1階 演習廊下)

●懇親会 18:30～
(会場：産業科学研究所 管理棟1階 サロン・ド・サンケン)

大阪大学 産業科学研究所 〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1
(問い合わせ先) 大阪大学 産業科学研究所 総務課 総務係
TEL: 06-6879-8384 E-mail: sanken-soumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp
共催：一般財団法人 大阪大学 産業科学研究所
協賛：物質・化学・ナノテクノロジー研究拠点
A・知能と情報創造イノベーション創出ダイナミック・ライアンス

ご意見ご要望等ございましたらいつでもご連絡ください。

産研同窓会 (SANKEN Alumni Association)

〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 / TEL: 06-6879-8380 / FAX: 06-6879-8509

E-mail: DOUSOUKAI@sanken.osaka-u.ac.jp / URL: http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/dousoukai/